

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070104462
法人名	社会福祉法人 芦辺会
事業所名	グループホーム あしべ
所在地	和歌山県和歌山市雄松町3丁目19-6 (電話) 073-436-0200

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月15日

## 【情報提供票より】(平成 21年 1月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	15.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要( 1月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 65 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会和歌山病院・須佐病院・和歌浦中央病院・瀬藤病院・平歯科医院・仲河眼科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人芦辺会が運営する当該ホームは、和歌山市の中心地に位置した住宅街にあり、商店や公共施設が近くにあり、日々の散歩や買い物など生活がしやすく、地域とのつながりを大切に、小学校との交流や地域行事など積極的に参加しています。職員は、利用者と一緒に行動することを前提に出来ることに携わってもらい買い物や準備、食器洗い、野菜作りなどを行っています。また、リビングでは、利用者一人ひとりが計算ドリルや食事の準備などをしながら、居心地よく過ごしやすい場となっており、4階の多目的ホールでは、上映会やレクレーション、カラオケなどをみんなが集まって楽しんでいます。また、畑や池があり、外気浴や季節が感じられ気持ちよく過ごせ、利用者がいきいきと元気に過ごされているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、運営推進会議を通じて地域へのとけ込みの課題を職員で話し合い順調に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、自己評価表を職員に見てもらい、意見を聞きながら所長と計画作成担当者がまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の特別対策協議会教育部会長、人権委員会、子供会副会長、公民館会計などが参加する運営推進会議を開催しています。地域の情報や参加者からの意見も多いただき有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話で直接コミュニケーションを取り、意見や要望が話しやすい関係づくりに努めています。意見や要望があったときには、すぐに対応しケアに繋げています。また、毎月の「グループホームあしべ通信」で利用者ごとの様子を伝えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員が青年団に加入しており、地域の情報をもらい参加しています。小学校の文化祭に利用者の作品を展示してもらったり、盆踊りや敬老会などに参加しています。また、散歩時には、地域の方と気軽に声をかけてもらい挨拶を交わし交流に努めています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を大切に みんな笑顔で過ごせる場へゆとりある心 ゆとりある生活をめざす」の理念を職員で話し合い作りました。家族も含め安心して地域で暮らしていけるようにとの思いを込めて作りました。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関やフロアごとに掲示しています。申し送り時に理念を共有し実践に取り組んでいます。ホーム内だけの生活にならないよう、地域に溶け込んで行事にも参加できるように取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の文化祭に利用者の作品を出品したり、青年団に加入している職員からの情報や地域の盆踊り、自治会の敬老会などの行事に参加しています。また、散歩時には、近隣の方と挨拶を交わし気軽に声をかけてもらい地域に溶け込めるように努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に評価の項目を見てもらい意見を聞きながら、所長と計画作成担当者がまとめました。前回の評価の課題については、勉強会を開き評価についての意義を理解し改善に取り組んでいます。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の特別対策協議会教育部会長や人権委員会監査、子供会副会長、公民館会計などが参加する運営推進会議を開催しています。地域の情報や参加者から多くの意見をいただき有意義な場となっています。意見を言いやすい雰囲気作りに配慮し、その時の状況に応じた話題を話し合いサービスの向上に活かしています。		

グループホームあしべ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として市町村とのつながりを持っています。ホームから担当者との連携はとれていますが、積極的には働きかけていません。	○	ホームからも運営推進会議録などを持参し顔なじみになり、ホームの運営状況の報告や相談するなど検討してみたいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員が利用者一人ひとりのホームでの様子と写真を取り入れた「グループホームあしべ通信」を毎月発行しています。金銭については、立て替え対応で、毎月の利用料と領収書を添えて請求しています。また、電話や来訪時には、直接コミュニケーションを取りホームでの様子を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、話しやすい雰囲気や意見や要望を聞いています。また、困難事例が出た時には、法人も含めた話し合いを持ちケアに活かしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、シフト調整等に気を配って離職を防ぐ配慮をし、新任職員には、オリエンテーションや法人での新任研修を行っています。また、レクリエーションなどで折り紙や切り絵、貼り絵で大きな作品を利用者、職員で取り組みコミュニケーションをとり馴染みの関係作りに努力をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修計画があり、新人研修や特養の介護研修に順番で参加しています。また、和歌山県グループホーム連絡会で実施される研修に参加したり、その他の外部研修にも積極的に参加し、参加後は相互実習報告会で意見交換や報告書を回覧し伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと交流をしており、見学に行ったり意見交換をしています。また、和歌山県グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしてサービスの向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、必ず利用者と家族に見学に来てもらっています。ホームでの様子や雰囲気を感じてもらい、入居後は、なるべく居室で一人で過ごす時間を少なくして職員や利用者と一緒に過ごす工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に生活する中で、人生の先輩であることを常に心がけるようにしています。家事などを一緒に行いながら利用者に相談したり、共に考えて支えあう関係を築いています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用しながら、一人ひとりの思いの把握に努めています。利用者を理解し、意向に添えるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞きながら、職員の意見も取り入れた介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに短期目標の評価をしています。計画評価表を作成し、家族に説明し同意を頂き、6か月後は、介護計画の見直しをしています。状態の変化があったときには随時、見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や近隣の理美容の付添い、買い物、シニアエクササイズの参加の支援など希望に応じて柔軟な支援をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前にかかりつけ医を聞き、今までのかかりつけ医を継続している利用者や協力医療機関に見てもらっている利用者がいます。また、日々の体調変化には法人内のクリニックでの受診をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針同意書」を家族に説明し同意をもらっています。医療連携体制を基にその時の状況により、医師や訪問看護、家族、職員と相談しながら対応できるように考えています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、言葉使いやさりげない態度などに、職員で気をつけ注意し合っています。また、個人情報の記録物は、事務所で適切に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはありますが、起床から睡眠まで、利用者の希望やペースに合わせた生活を支援しています。一人ひとりのその日を大切に送れるように配慮しています。		

グループホームあしべ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を取り入れ作られており、買い物では利用者は積極的に食材選びに関わり、調理は利用者の出来る事が発揮できるように支援し、職員も同じテーブルと一緒に食事をしながら楽しめるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後から夕食前まで、利用者の希望に応じて入浴してもらっています。職員のタイムリーな声掛けで週に3回は、楽しんで入浴ができるようにしています。また、希望があれば、毎日の入浴もできるようにしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜や花づくり、ペンキ塗り、買い物から食事の準備、後片付けまで出来る事や興味のあることを役割や楽しみとして利用者に応じた出番を作っています。地域の行事や季節に合わせた遠足、博物館などに出かけ楽しみながら日々を過ごしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物など希望に応じて、出来るだけホームで過ごすことがないように声掛けしながら外出ができるようにしています。また、ホームの4階に金魚の泳ぐ池や季節の野菜が植えられている畑があり、外気浴やバーベキューをしたり季節を肌で感じられる場所があります。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前は交通量が多いことや安全・防犯のためにも、インターホンで応答し電子ロックで対応しています。ホーム内は、自由に行き来ができますが、エレベーター使用時には利用者から声をかけてくれるので同行しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練をしています。消防署立会いの下で行うこともあり、法人が近隣にあるので、協力体制は取れていますが近隣の住民に訓練の働きかけはしていない。	○	法人が近くにありますが、近隣の住民にもホームの状況を知ってもらい、運営推進会議等で話題にして、協力体制を検討してみたいかでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食記録しています。栄養士の資格を持つ職員がおり、バランスを考えた献立を利用者と一緒で作成しています。月に1回の体重測定を行い増減のチェックをしています。また、嚥下状態に応じた刻み食やとろみ利用で対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、居室前にあり手作り作品や季節の花が飾られ利用者が集まりやすい空間になっています。また、4階で各フロアの利用者が集まり、レクリエーションや行事ができるようになっており、カラオケなどを楽しんでいます。庭園を設け、池や畑で野菜作りや外気浴などを楽しみ居心地よく過ごせる工夫をしています。玄関には、利用者と職員が共同で作った季節先取りの大きな桜の木が飾られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には入居後に利用者と職員が共同で作ったそれぞれ特徴のある暖簾を掛けています。今まで使っていたテレビやテーブル、ジュース、家族の写真、鏡台や位牌、ちゃぶ台等を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしています。また、希望に応じて畳を敷くこともできます。		